

タイ産生鮮鶏肉解禁による 日本への輸出見通し



平成26年11月4日(火)

独立行政法人農畜産業振興機構
調査情報部 西村 博昭

はじめに

【本資料における言葉の定義】



- 生鮮鶏肉
加熱処理されていない鶏肉の総称
(主に、生で加工処理され冷凍したもの)



- 半製品
生鮮鶏肉のうち、味付け、衣付けなどを施したもの(加熱されていない鶏肉調製品)



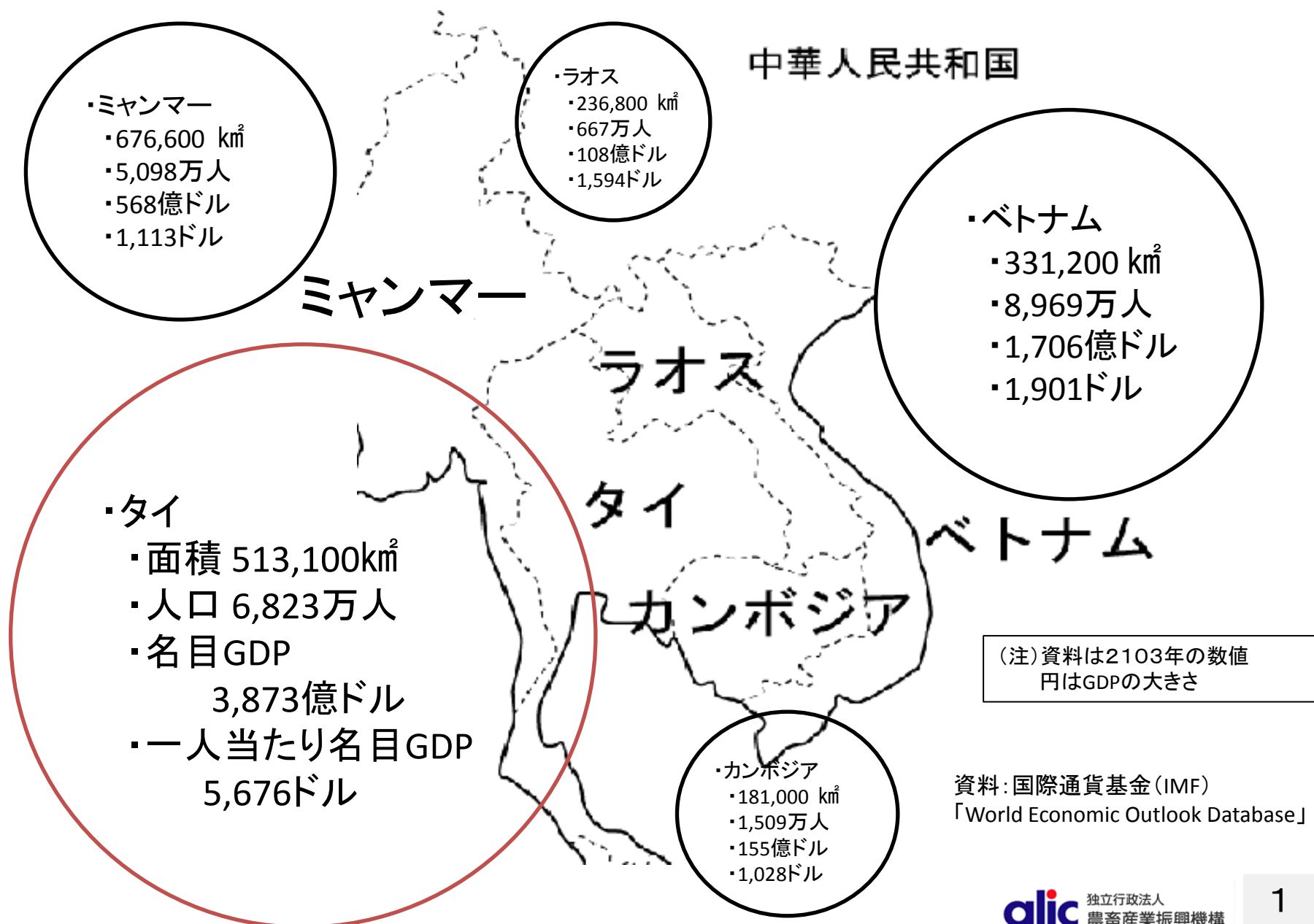
- 加熱加工品
加熱処理された鶏肉の総称
(加熱された鶏肉調製品)



本資料の構成

1. タイの鶏肉をめぐる概況
2. タイの鶏肉消費動向
3. タイ産鶏肉の輸出動向
4. 日本から見たタイ産鶏肉の位置づけ
5. タイ産鶏肉増産に向けた現状と課題
6. 生鮮鶏肉輸出の見通し
7. まとめ

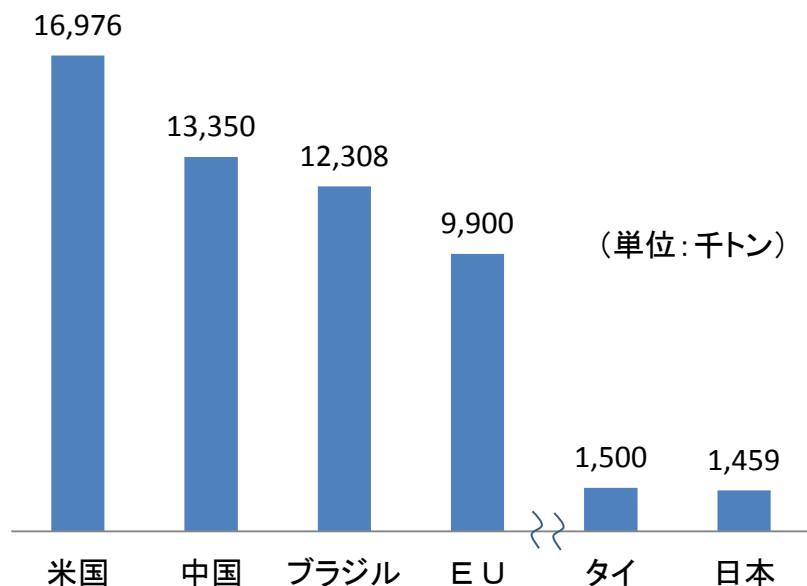
1 タイの鶏肉をめぐる概況 ～経済概況～



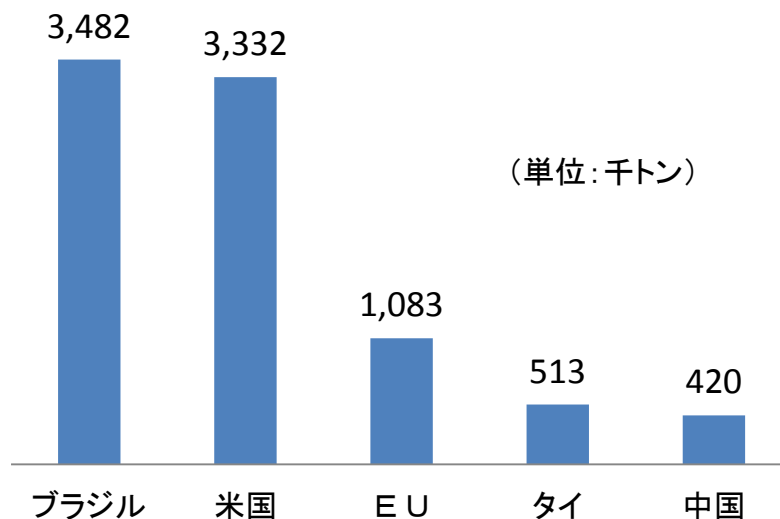
1 タイの鶏肉をめぐる概況 ～世界における位置づけ～

- ・ タイの鶏肉生産量は、米国、中国、ブラジル等の主要生産国と比べて少なく、日本と程度。
- ・ 輸出量は、ブラジル、米国、EUに次ぐ世界第4位。

◆ 鶏肉生産量(2013年)



◆ 鶏肉輸出量(2013年)

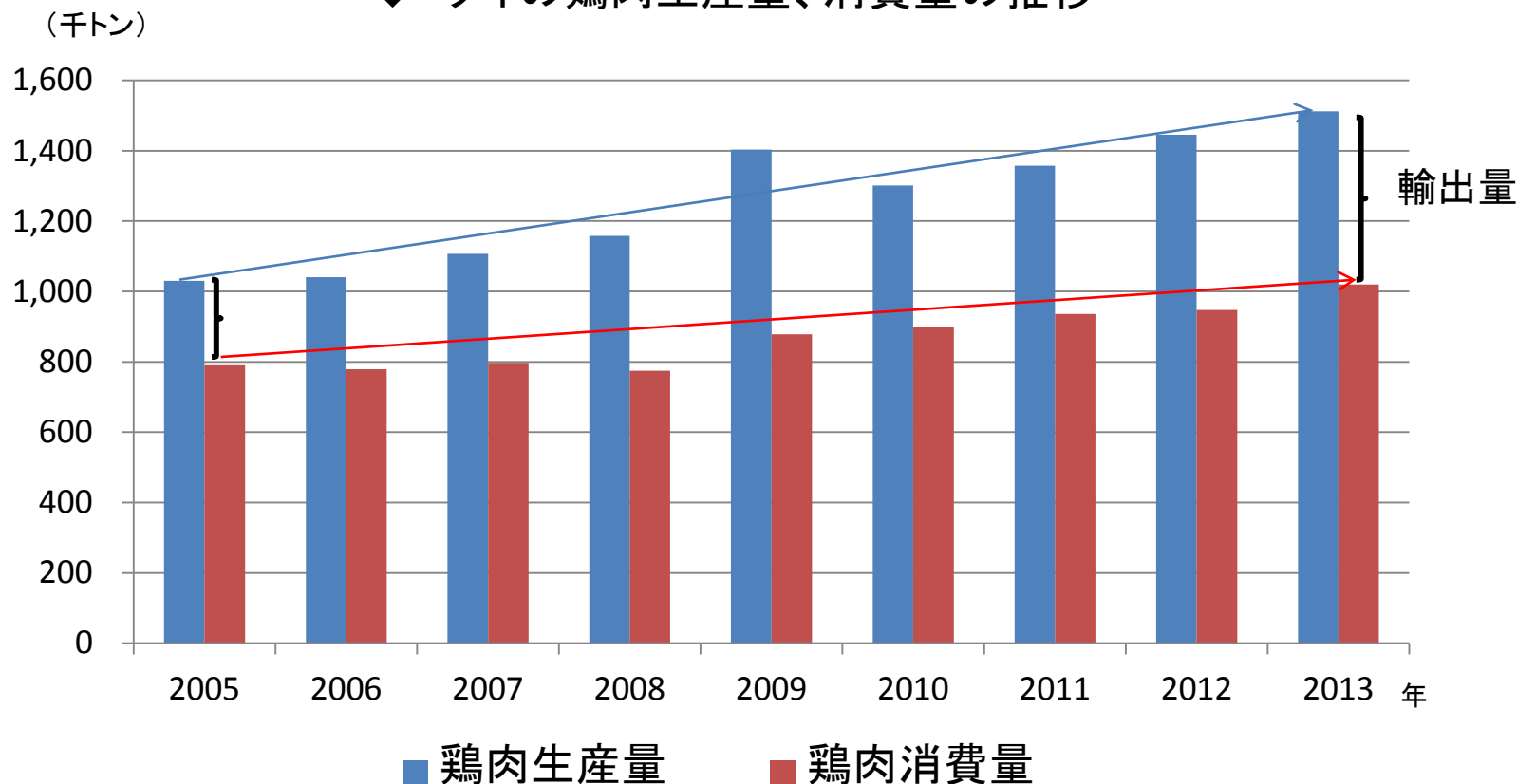


資料:米国農務省(USDA)調べ、日本のみ食料需給表(2013年度(概算値))

1 タイの鶏肉をめぐる概況 ～鶏肉の需給構造～

- ・ タイの鶏肉生産量および消費量は、ともに増加傾向で推移。
- ・ 近年は、国内消費量よりも、輸出量の伸びが大きい。

◆ タイの鶏肉生産量、消費量の推移

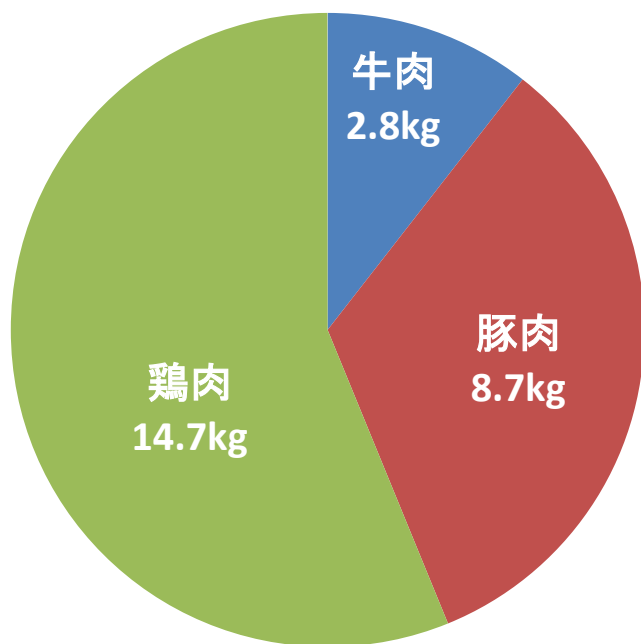


資料: タイ農業協同組合省

2 タイの鶏肉消費動向 ～食肉消費に占める割合～

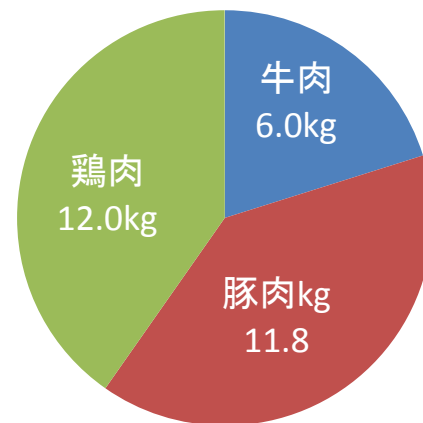
- ・ タイは鶏肉消費が主体であり、食肉消費全体の過半を占める。

◆ タイの年間1人当たり食肉消費の内訳



2012年 26.2kg/年・人

(参考)日本の食肉消費の内訳



2013年度 29.8kg/年・人

資料: タイはFAO調べ、日本は食料需給表(2013年度概算値)

2 タイの鶏肉消費動向 ～タイ国内の鶏肉販売①～

- ・生の鶏肉の販売は、露店、スーパー、百貨店など様々。



①



③



②

- ① 露店での販売
- ② スーパーでの販売
- ③ 百貨店での販売

2 タイの鶏肉消費動向 ～タイ国内の鶏肉販売②～

- ・調理した鶏肉は、屋台、外食、スーパーの惣菜などで広く提供。



①



②

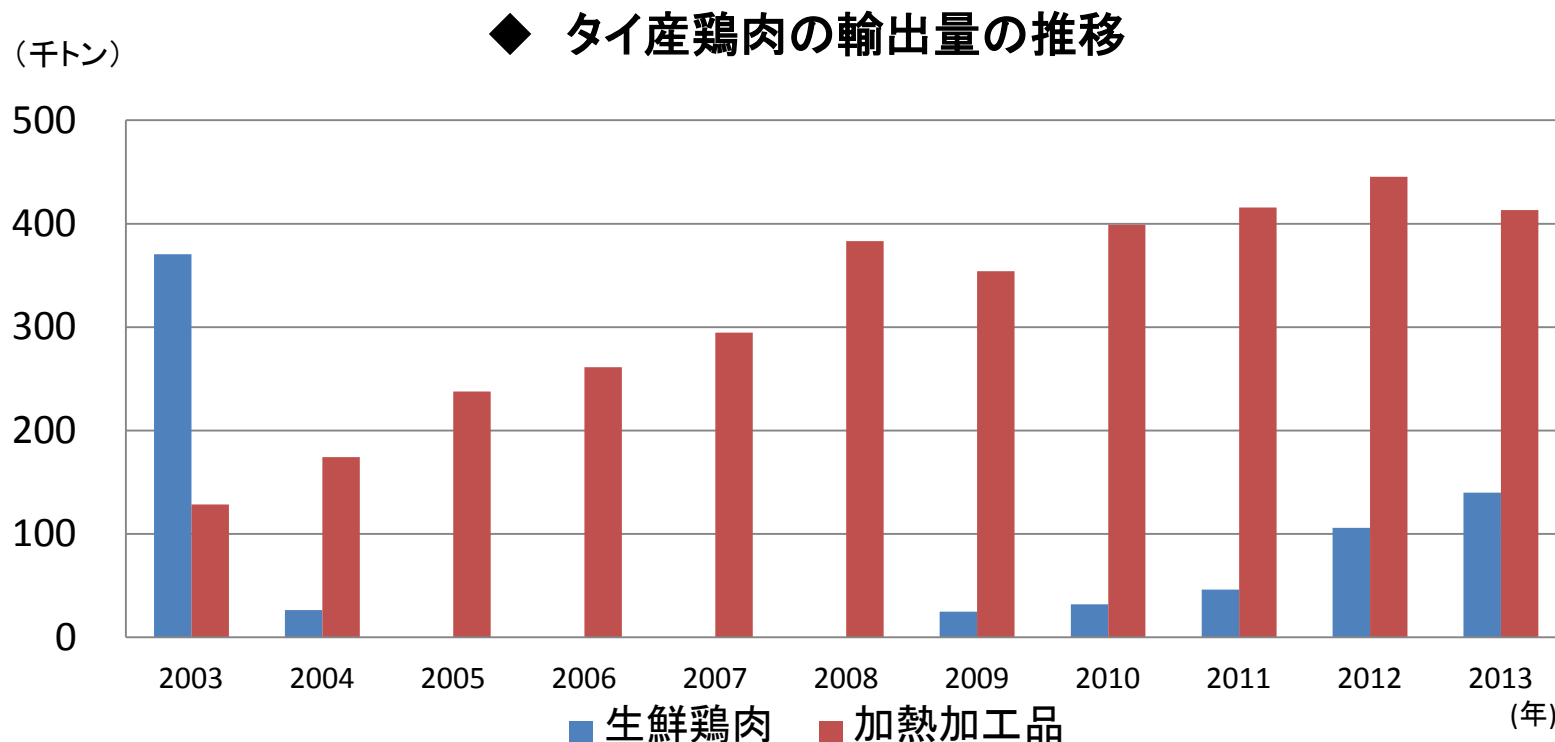


③

- ① 屋台での焼き鳥
- ② 外食店での鶏肉料理
- ③ スーパーの惣菜コーナー

3 タイ産鶏肉の輸出動向

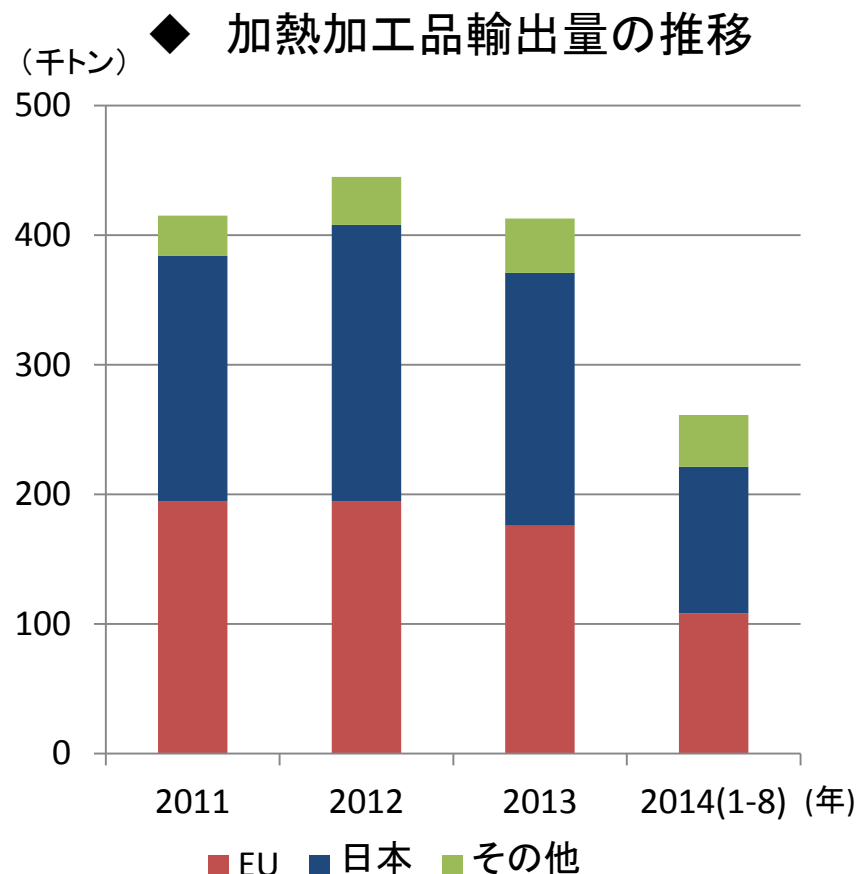
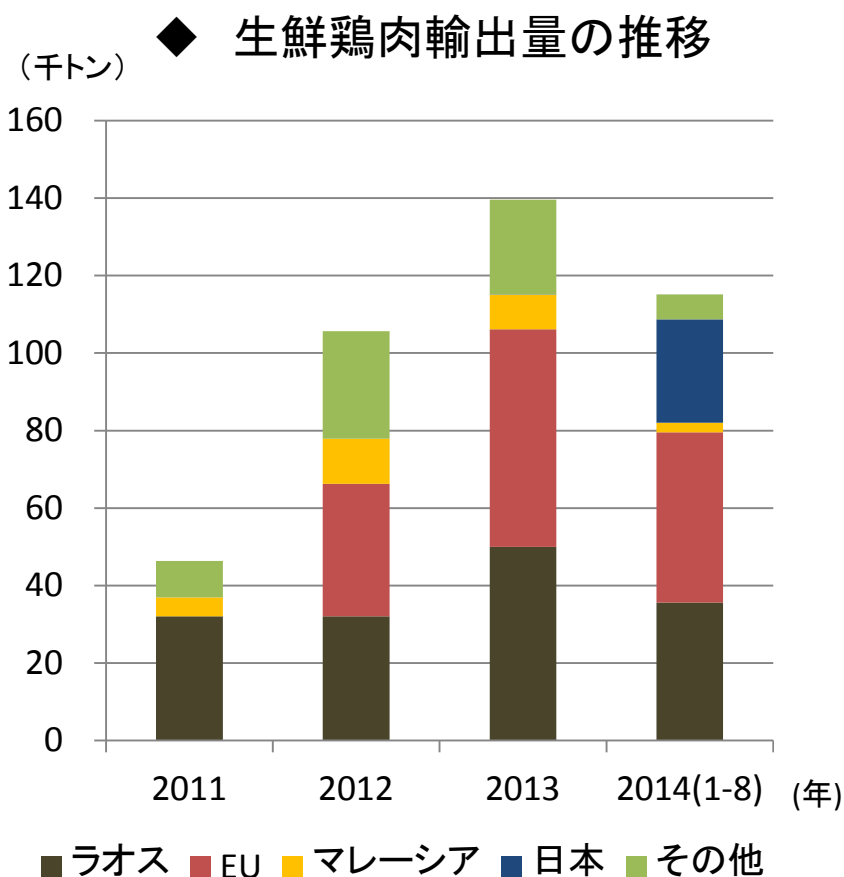
- 2004年1月の鳥インフルエンザ発生を機に、生鮮鶏肉輸出が停止。以降、輸出は加熱加工品にシフトし、増加傾向で推移。
- 2012年2月にはEU、2013年12月には日本向け生鮮鶏肉輸出が解禁。



資料: Global Trade Atlas

3 タイ産鶏肉の輸出動向 ～生鮮・加熱加工品別動向～

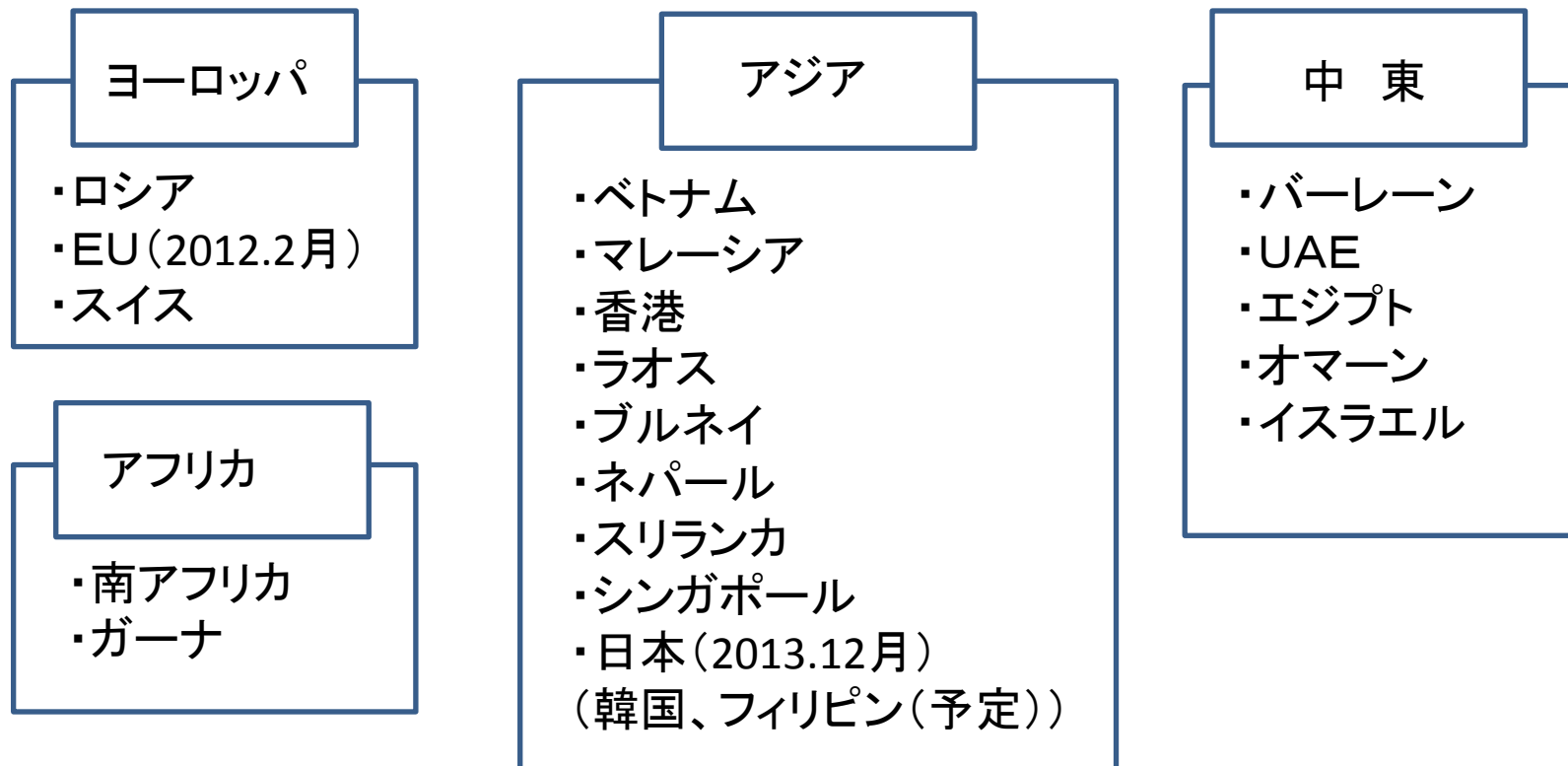
- ・ 輸出先は、生鮮鶏肉と加熱加工品で異なる。
- ・ 生鮮鶏肉は、EU、ラオス、マレーシア等が主体であるが、加熱加工品は日本とEUで二分。



3 タイ産鶏肉の輸出動向 ～生鮮鶏肉の輸出～

- ・ 生鮮鶏肉の輸出については、近年、各国で輸出が解禁。
- ・ EU、日本に引き続き、今後、韓国、フィリピンが解禁の予定。

◆ タイ産生鮮鶏肉の輸入を解禁した(予定)の国々



資料:ALIC調べ

3 タイ産鶏肉の輸出動向 ～加熱加工品の輸出～

- ・ 加熱加工品は、食習慣の違いから、主に日本にはモモ肉、EUにはムネ肉を輸出している。
- ・ 日本向けモモ肉は、厳密な形状・品質・重量の均一性が要求される。

◆ 日本向けモモ肉



◆ EU向けムネ肉



◆ タイ産加熱加工品の輸出価格(2013年)

(単位: 米ドル/トン)

日本	EU		
	英国	オランダ	ドイツ
5,067	4,506	4,496	4,447

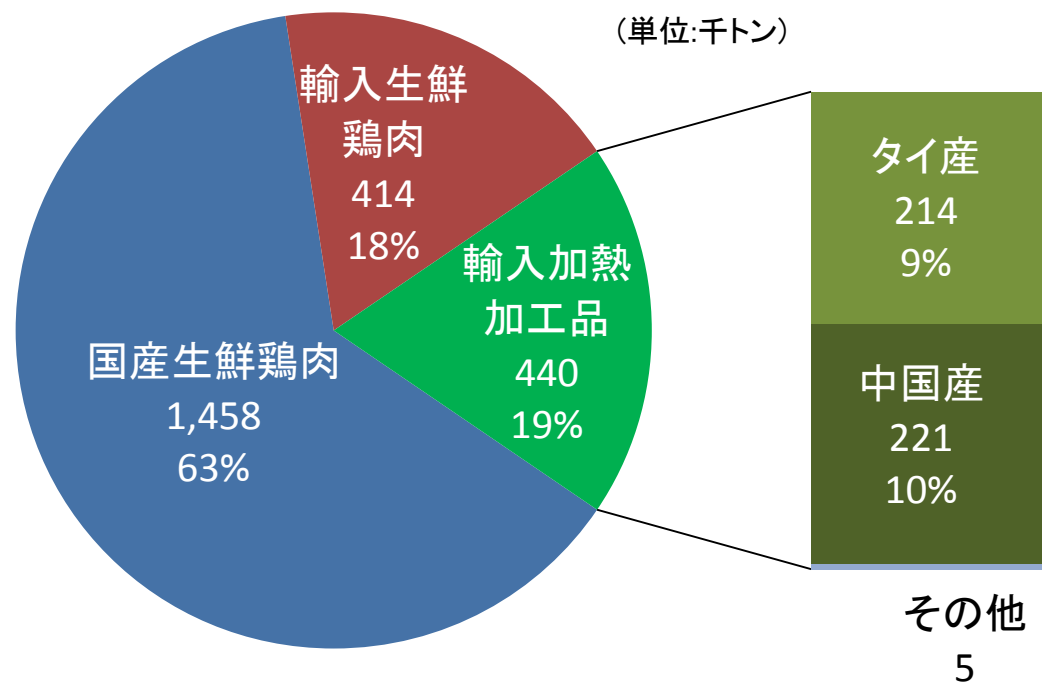
資料: Global Trade Atlas

注: 価格はFOB価格

4 日本から見たタイ産鶏肉の位置づけ

- 日本の鶏肉消費の4割弱が輸入。輸入のうち加熱加工品は約半数を占める。
- 日本の鶏肉消費に占めるタイ産鶏肉の割合は1割程度。

◆ 鶏肉(生鮮及び輸入加熱加工品)の国内供給量(2013年)

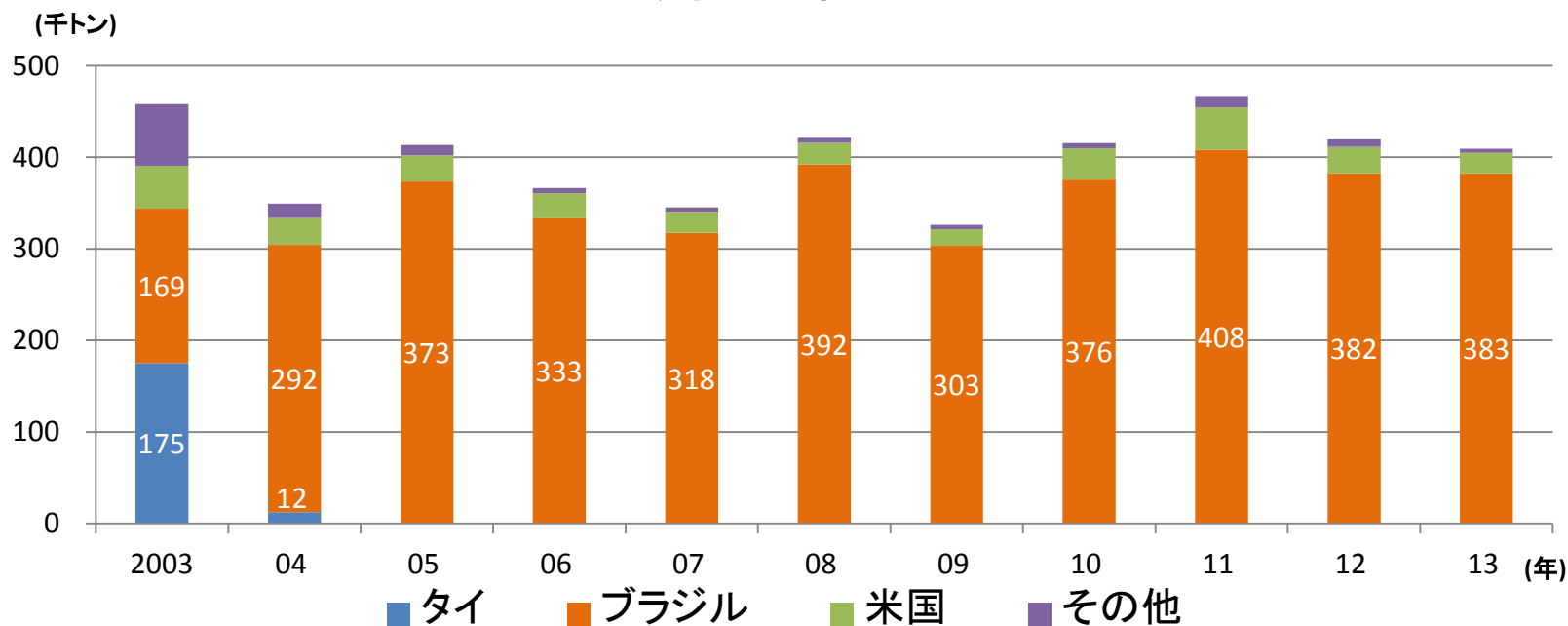


資料: 農林水産省「食肉流通統計」、財務省「貿易統計」

4 日本から見たタイ産鶏肉の位置づけ ～生鮮鶏肉～

- ・ 生鮮鶏肉の輸入量は40万トン前後で、横ばいで推移。
- ・ タイの鳥インフルエンザ発生を契機に、輸入先はブラジル産にシフト。9割をブラジル産が占めている。

◆ 生鮮鶏肉の輸入量の推移

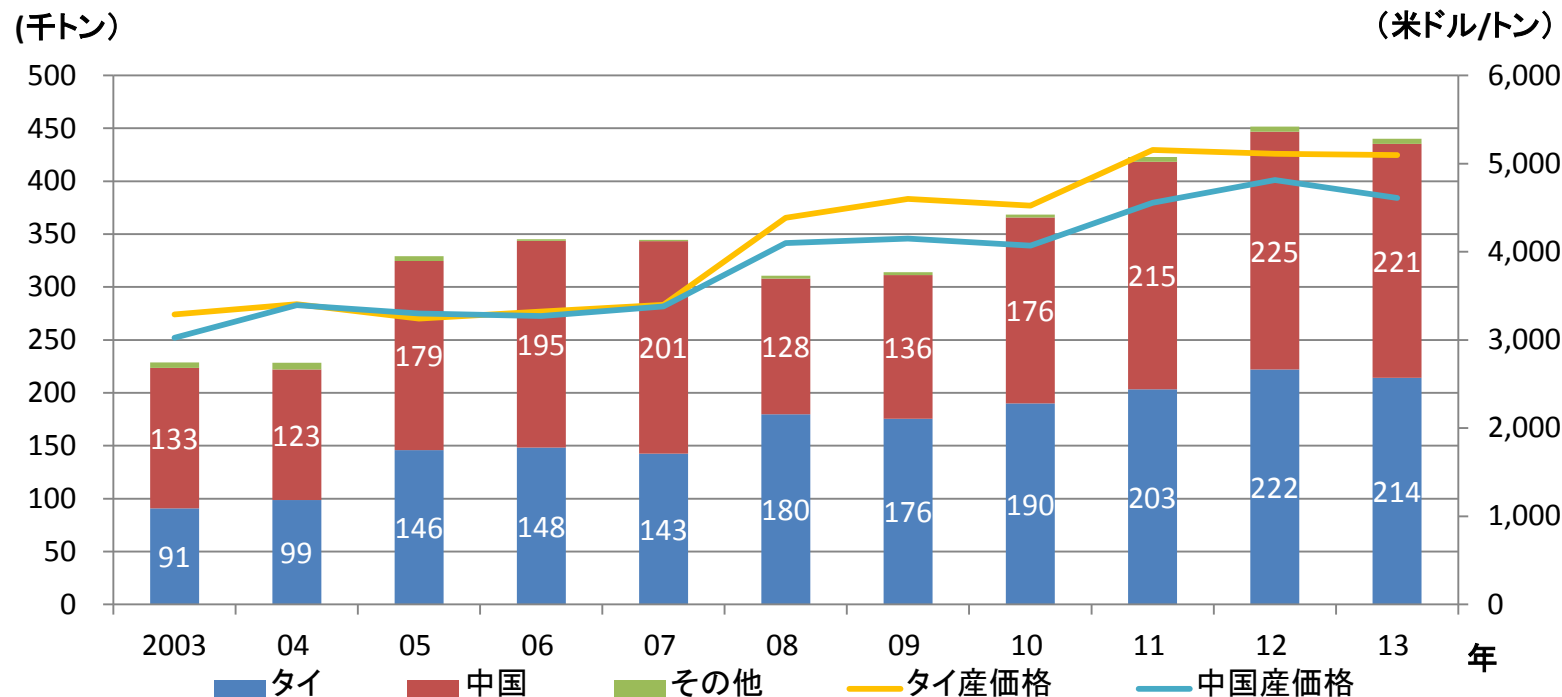


資料: Global Trade Atlas

4 日本から見たタイ産鶏肉の位置づけ ～加熱加工品～

- ・ 加熱加工品の輸入量は増加傾向で推移(2013年は43万トン)。
- ・ 中国産は輸入量の変動が大きい一方、タイ産は安定的に輸入量が増加。

◆ 加熱加工品の輸入量および輸入価格の推移

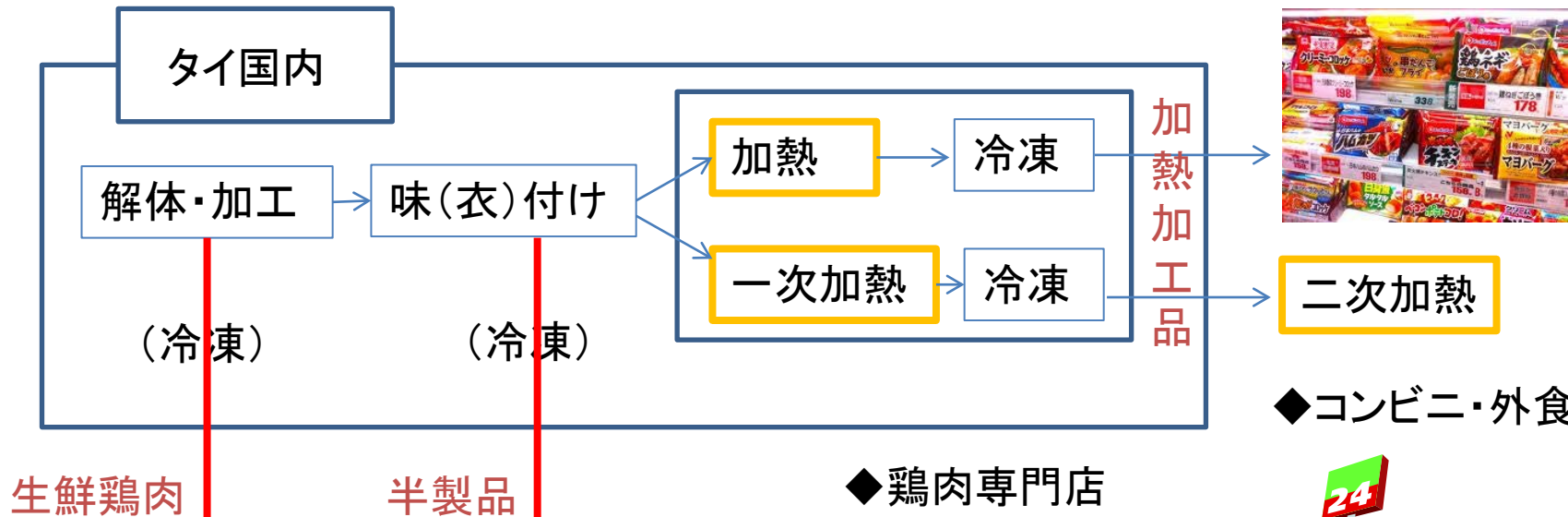


資料: Global Trade Atlas
注: 輸入価格はCIF価格

4 日本から見たタイ産鶏肉の位置づけ ～流通形態～

- ・ タイ産加熱加工品は、外食用、家庭用冷凍食品、コンビニのレジ回りなど幅広く取り扱われている。
- ・ 生鮮鶏肉の輸入解禁により、日本の鶏肉専門店などにおいて調理のバリエーションが広がる可能性。

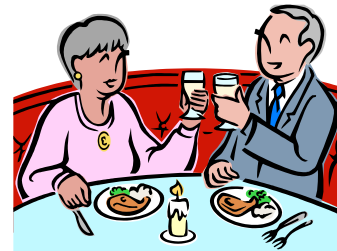
◆家庭用冷凍食品



◆コンビニ・外食店



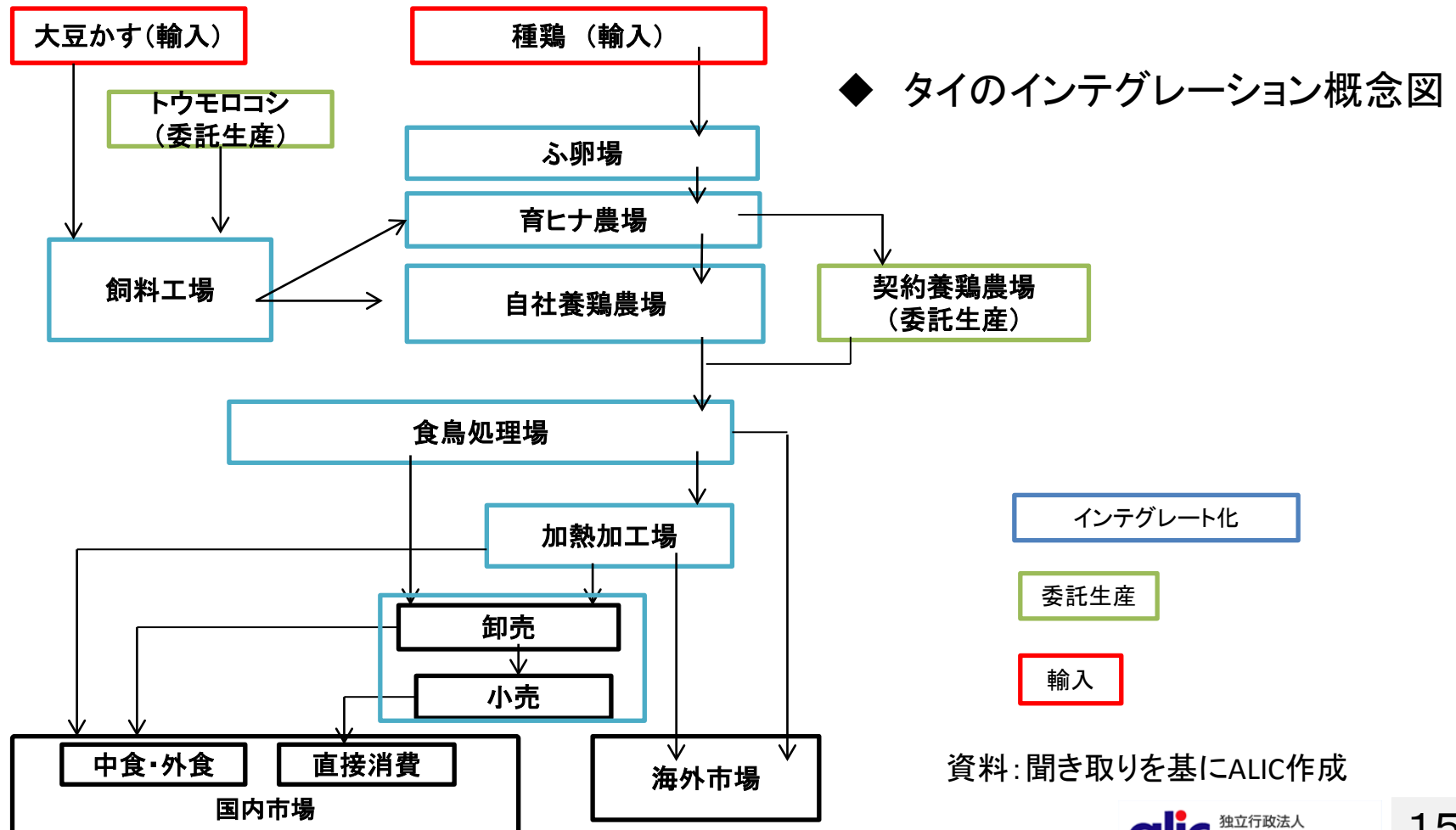
◆鶏肉専門店



→ 生鮮鶏肉解禁による新たな工程

5 タイ産鶏肉増産に向けた現状と課題 ～生産の現状①～

- 加熱加工品の生産拡大に対応して、インテグレーションが加速。
- 生産・流通・販売の一貫体制による鶏肉製品のブランド化が進展。

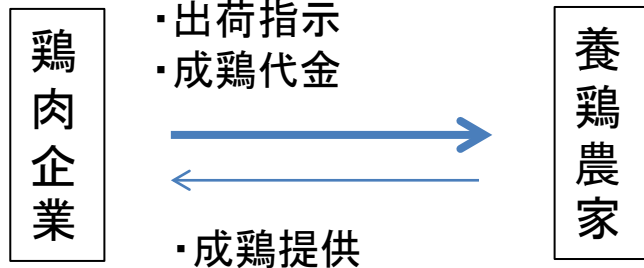


5 タイ産鶏肉増産に向けた現状と課題 ～生産の現状②～

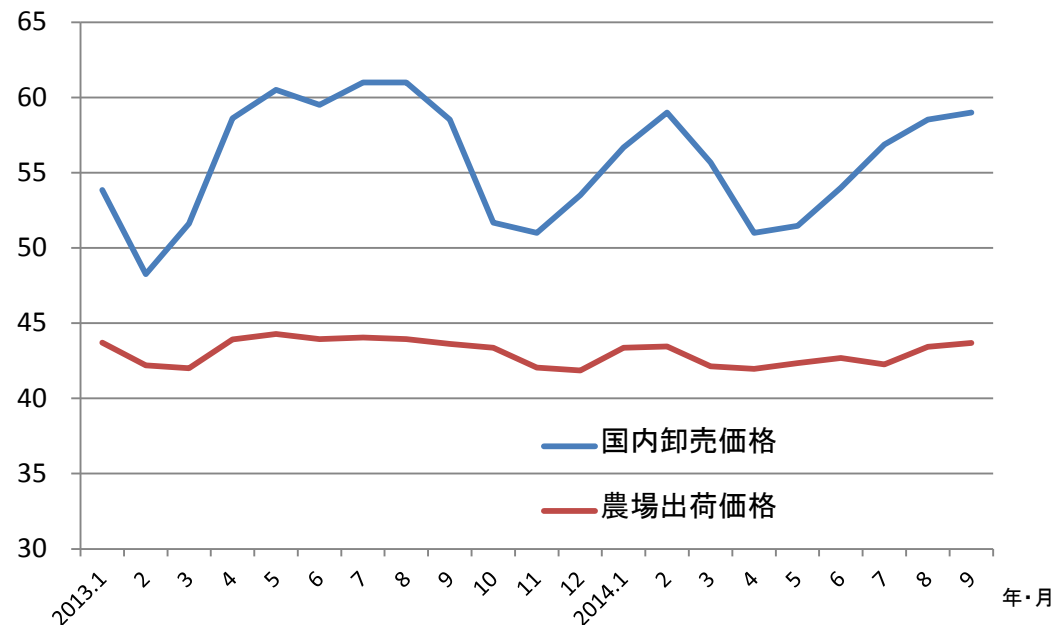
- ・ インテグレーション下においては、契約養鶏農家が出荷する成鶏の価格は、ほぼ固定。
- ・ 生産コストの上昇や、販売不振などのリスクは鶏肉企業が背負う仕組みであり、生産羽数拡大には企業側の了承が必要。

◆ 農場出荷価格と鶏肉国内卸売価格の推移

【契約の事例】



(単位: バーツ/kg)



資料: タイ農業協同組合省および国内取引局調べ

5 タイ産鶏肉増産に向けた現状と課題 ～環境問題～

- ・ タイの養鶏農家はバンコク近郊に多く、土地の制約が大きい。
- ・ 環境規制の強化により、規模拡大には周辺住民の同意が必要。

◆ タイの主要県別鶏生産羽数

県名	生産羽数 (千羽)	割合
① チョンブリ	282,730	25.6%
② チャチュンサオ	89,847	8.1%
③ プラーチェーンブリー	79,371	7.2%
④ ナコーンナヨック	63,400	5.7%
⑤ ナコーンラーチャシーマー	50,669	4.6%
⑥ ロップリー	49,615	4.5%
⑦ ラヨー	38,051	3.4%
⑧ サラブリー	34,711	3.1%
⑨ ナコーンパトム	27,018	2.4%
⑩ チャンタブリー	20,916	1.9%
⑪ アユタヤ	15,716	1.4%
小計	752,042	68.2%
その他の県	351,281	31.8%
合計	1,103,323	100.0%

資料：タイ農業協同組合省の資料を基にALIC作成



5 タイ産鶏肉増産に向けた現状と課題 ～資材調達～

- ・ 飼料については、とうもろこしを自給しているものの、畜産物需要の拡大により、今後の安定的な確保が必要。
- ・ 種鶏については、全て欧米からの輸入に依存。

◆ タイのとうもろこし需給動向

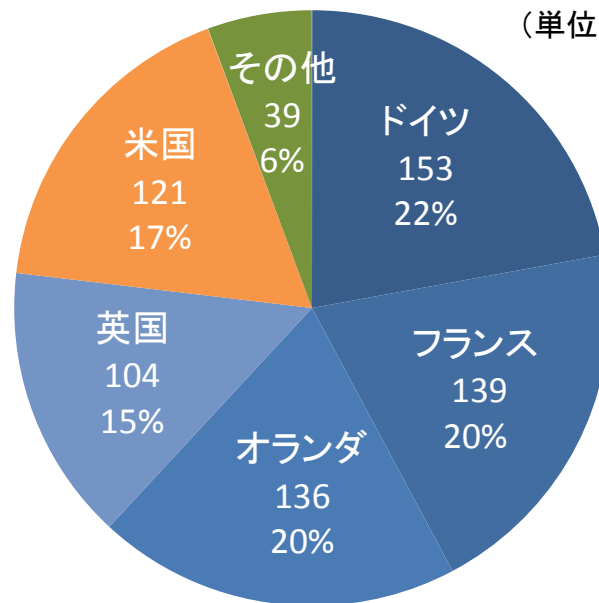
(単位:千トン)

年	2009	2010	2011	2012	2013
需要量	4,210	4,280	4,360	4,670	4,740
供給量 ①+②-③	4,067	4,835	4,899	4,855	4,911
国内生産 ①	4,616	4,861	5,022	4,780	4,879
輸入 ②	294	367	196	197	38
輸出 ③	843	393	319	122	6

資料: タイ国内取引局

◆ 輸入先国別種鶏輸入羽数(2013年)

(単位:千羽)



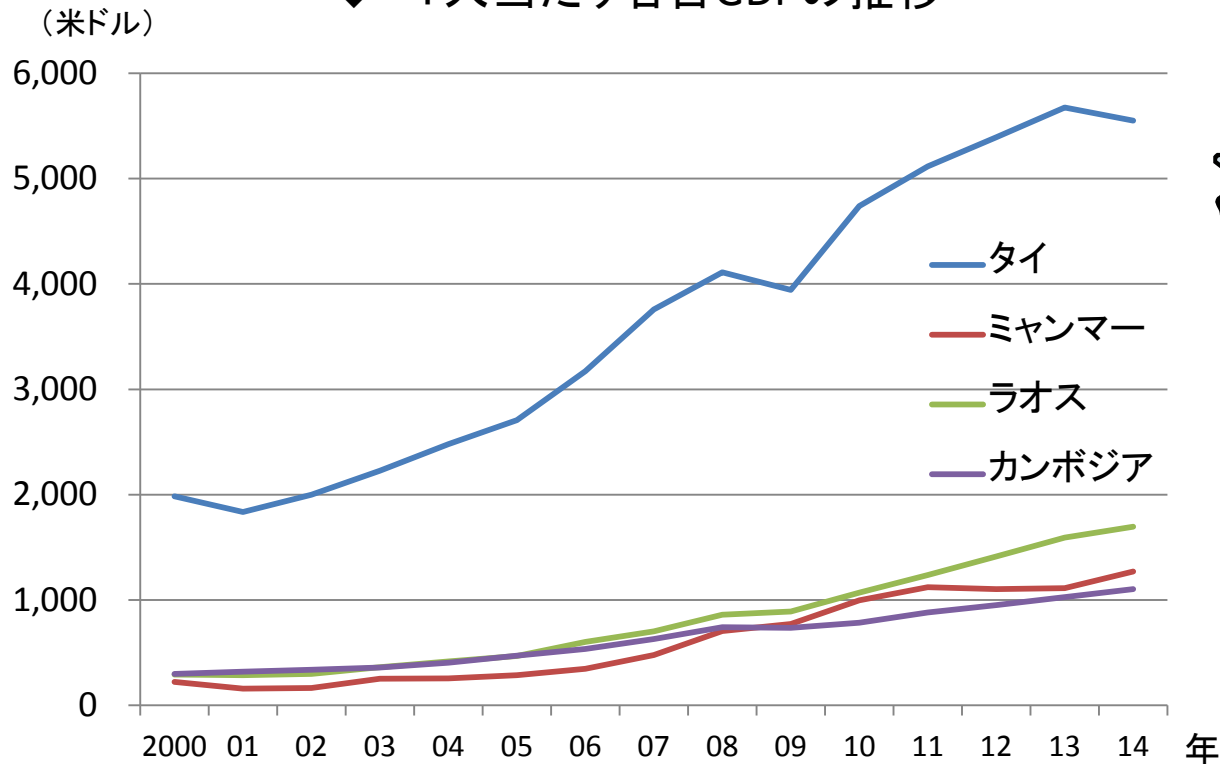
資料: Global Trade Atlas

注: 採卵用を含む

5 タイ産鶏肉増産に向けた現状と課題 ～労働力確保～

- ・ タイの鶏肉企業が必要とする高い衛生・品質基準を保つには、人材の育成・確保が不可欠。
- ・ 経済成長に伴い、タイ国内での安価な労働力の確保が困難となってきた。

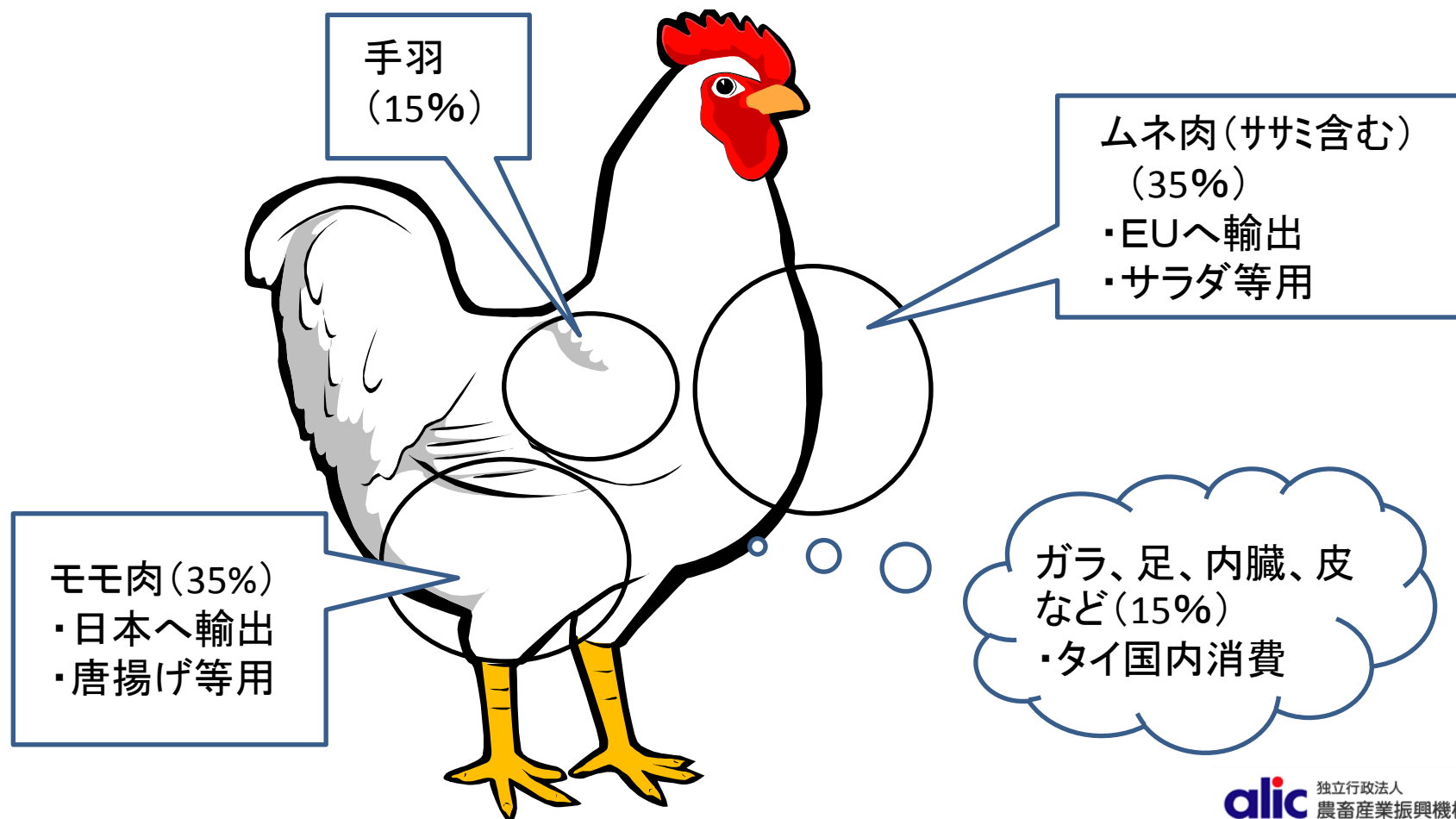
◆ 1人当たり名目GDPの推移



資料: 国際通貨基金 (IMF)

6 生鮮鶏肉輸出の見通し ～需要の見極め①～

- ・ ガラ、足、内臓などはタイ国内で消費され、これは鶏1羽からの生産物の2割弱の数量を占める。
- ・ 鶏1羽のトータルでの販売先を確保できない限り、増産は困難。



6 生鮮鶏肉輸出の見通し ～需給の見極め②～

- ・ 鶏肉は、食肉の中で最も安く、手頃な食材として位置づけ。
- ・ タイの鶏肉輸出企業は、代替品となる食材価格なども考慮し、輸出先国の鶏肉需要を見極めた価格設定が重要。

◆ 日本の食肉小売価格の比較(2013年)

(単位:円/100g)

国産牛肉(和牛)		豪州産牛肉		国産豚肉		国産鶏肉	
サーロイン	もも	サーロイン	もも	ロース	もも	むね	もも
1,148	629	331	178	245	159	84	131

資料:ALIC調べ、特売を除く

◆ 日本において鶏肉との代替になると考えられる食品



豚



魚



大豆

6 生鮮鶏肉輸出の見通し ～生鮮・加熱加工品の比較～

- ・ 生鮮鶏肉は、ブラジル産との低コスト競争を強いられ、伝染病発生などによるリスクも高い。
- ・ 半製品は、需要は不安定だが、競合する国がほとんどない。
- ・ 加熱加工品は、高コストだが、価格・需要ともに安定。日本への競合は中国産。

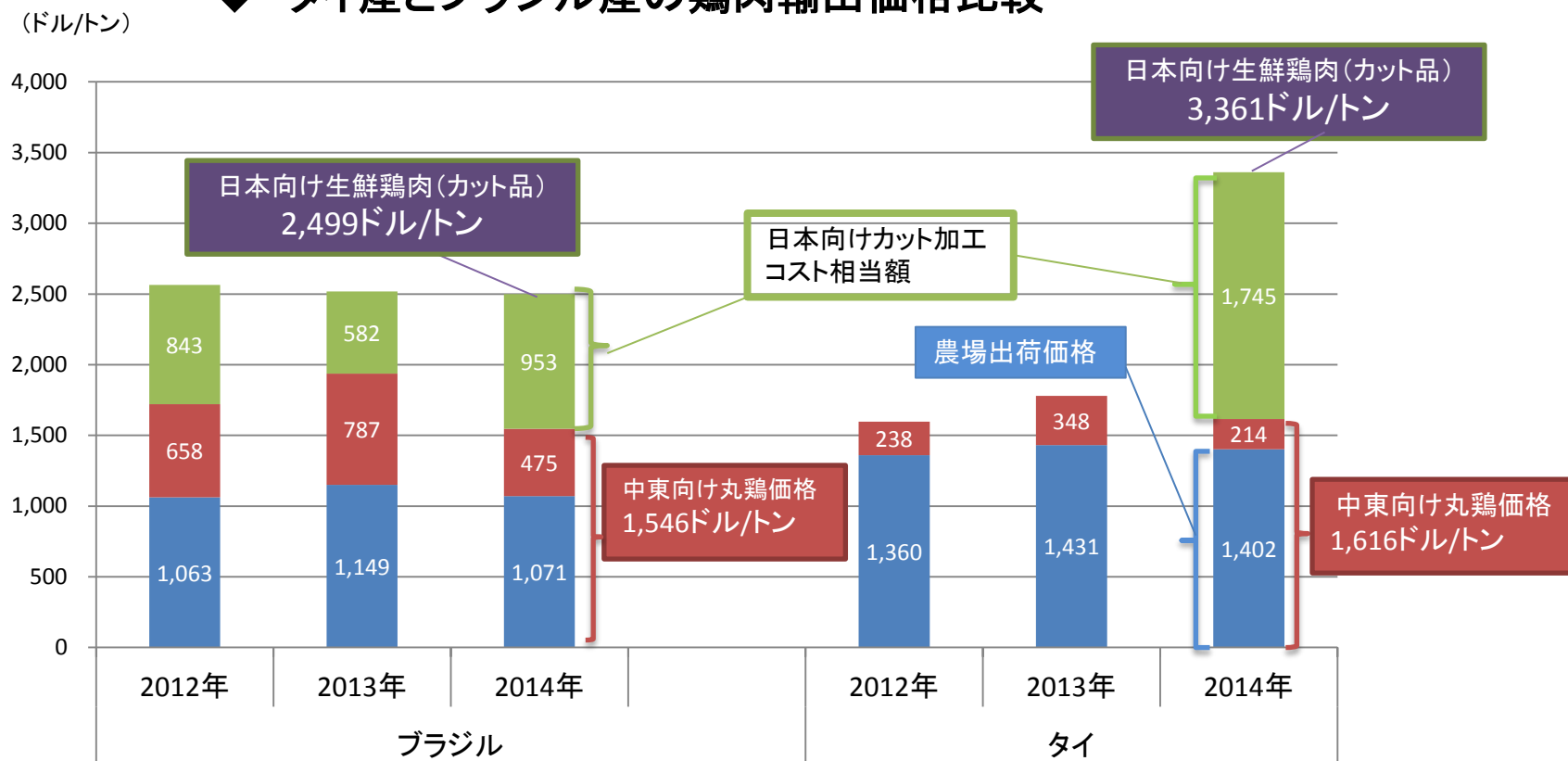
◆ 生鮮鶏肉(半製品)、加熱加工品の比較

	生鮮鶏肉		加熱加工品
	生鮮鶏肉	半製品	
生産コスト	低い	やや低い	高い
設備	比較的簡易		多大な投資が必要
加工・製造技術	一般的な加工技術		高度な加工・衛生(温度)管理技術
熟練労働	必要なし		必要
価格(利益)	低い	やや低い	高い
需要	不安定 (鳥インフルエンザ発生で輸出禁止)		安定
輸出需要見込み	アジア周辺国の消費量増加	商品開発による需要創出	
(参考) 日本への輸出競合国	ブラジル、米国	特になし	中国

6 生鮮鶏肉輸出の見通し ～生鮮鶏肉の競争力～

- ・ タイ産とブラジル産を比較すると、日本への丸鶏出荷価格は同程度と推定。
- ・ 日本向けの鶏肉は、カット加工コスト面でブラジル産を大きく上回るが、タイの企業が、きめ細かい日本のオーダーに対応していることも一因。

◆ タイ産とブラジル産の鶏肉輸出価格比較



資料: タイ農業協同組合省およびブラジル国家食料供給公社、Global Trade Atlas の資料をもとにALIC作成

注: 価格はFOB価格

6 生鮮鶏肉輸出の見通し ～加熱加工品の販売拡大～

- ・ タイ鶏肉輸出企業は、日本人の嗜好性などの情報を蓄積し、新たな加熱加工品を商品開発。
- ・ コンビニや外食店など、これまで構築した日本の流通チャネルを利用して販売を拡大。



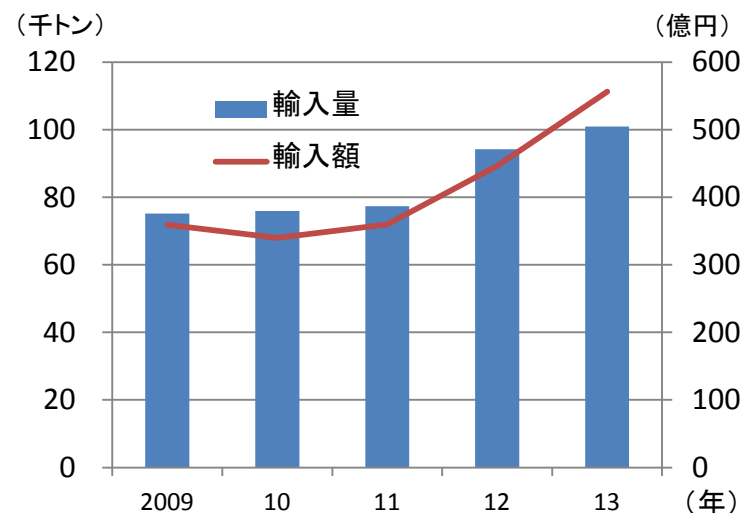
← タイの名物料理
グリーンカレー

サラダ用チキン
加熱加工ムネ肉
→



(参考)

日本におけるタイ産調理冷凍食品の輸入量の推移



資料: 日本冷凍食品協会「冷凍食品に関連する諸統計」

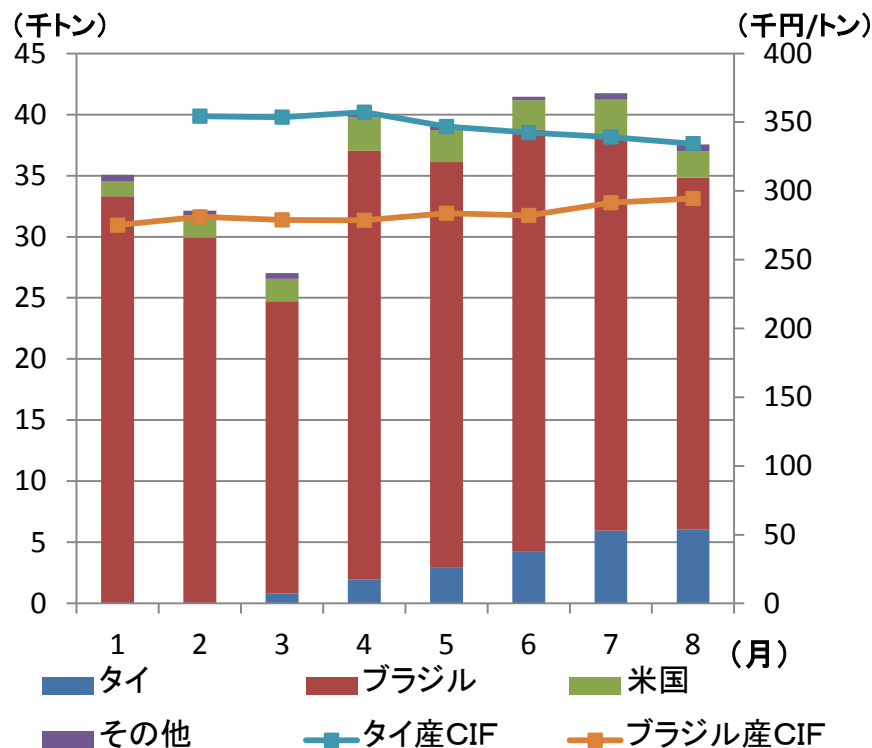
注: データは31社を対象としたものであり、日本の輸入全体の状況を示すものではない。

数値は、鶏肉加熱加工品のほか、水産製品、野菜製品なども含む。

6 生鮮鶏肉輸出の見通し ～まとめ～

- ・ 生鮮鶏肉の対日輸出は、今年1～8月の合計で22千トン。年間では5～7万トン程度の見込み。
- ・ 今後も、加熱加工品を主体とした輸出形態は変わらず、急激な生鮮鶏肉の対日輸出の増加は見込まれない。

◆ 日本の生鮮鶏肉輸入量(2014年)



資料:財務省「貿易統計」

○ タイ政府の見解

- ・ 今後5～10年間は、従来同様、生産は年率5%の伸び。これに伴い、生鮮鶏肉輸出も大きく増加。
- ・ 堅調な国内・輸出需要を背景に、価格は上昇。

○ 大手鶏肉輸出企業などの見解

- ・ これまでと同様のペースでの生産拡大は困難。
- ・ 今後も加熱加工品の輸出に重点。
- ・ 2014年の日本向け生鮮鶏肉の輸出量は、多く見積もって5～7万トン程度。
- ・ 半製品の輸出は伸びる見込みはあるが、鶏肉専門店など市場は限定的。
- ・ 堅調な国内・輸出需要を背景に、価格は上昇。

7. まとめ

- タイの鶏肉増産については、国内需要と輸出先需要両方の見極めが重要であり、**急激な増産体制の構築には慎重**。
- 長期的な増産については、国内の環境規制や、資源・労働力の確保といった問題はあるものの、**堅調な需要を背景に、輸出向けは増加していく見込み**。
- タイの鶏肉輸出企業は、安価なブラジル産生鮮鶏肉と競争する考えはなく、**今後も、日本に対しては加熱加工品を主体とした付加価値の高い製品の輸出を行っていく意向**。
- タイ産生鮮鶏肉の解禁については、衛生基準に厳しいとされる**EUや日本において、更なる安全性の信頼を得たというアピール面でのメリットが大きい**。
- 中国産鶏肉の安全性の問題、タイ鶏肉企業のマーケット拡大への取組等により、**今後も鶏肉価格は堅調に推移する見込み**。



ご清聴ありがとうございました。

<http://www.alic.go.jp/>

本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断をお願いします。提供した情報の利用に関連して、万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは責任を負いません。